

二〇二〇年度入学試験問題 国語（五十分）

二月三日 実施

〔注意〕

- 一、試験開始の指示があるまで問題を開いてはいけません。
- 二、問題冊子は17ページあります。試験開始後すぐに確かめてください。
- 三、解答はすべて解答用紙に記入してください。
- 四、問題冊子の表紙及び解答用紙に受験番号（算用数字）と氏名をはっきり書いてください。
- 五、字数制限のある場合、句読点・カッコなどはすべて字数に数えます。
- 六、試験終了後、解答用紙だけでなく問題冊子も集めます。
- 七、試験中、机の上から物を落としたり、気分が悪くなったり、何か用ができた時は、手をあげて監督かんとくの先生に知らせてください。

受験番号

氏名

東京女学館中学校

一 次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。

貧乏だが気位だけは高いエクトル・ド・グリブランは、同じような貧乏貴族の娘と結婚し、二人の子供に恵まれた。結婚後も相変わらずの貧乏生活だったが、エクトルは春のはじめごろに余分な仕事をたのまれ三百フランという莫大な特別手当をもらった。そこで、奮発し馬車を借りてピクニックに行くことを計画した。以来、家族はピクニックの話でもちきりになり、エクトルは家族に乗馬の腕前を見せられると自慢気であった。森でピクニックを終えた後は、あえて人目につくよう豪勢にシャンゼリゼを通過して帰る予定を立てていた。

当日になると、馬車と馬とが同時に門前に到着した。a、彼は馬を検査するためにおりてきた。ズボンにはもうちゃんとスーピエをつけさせておいたし、鞭もきのうのうちに買ってあった。彼はその鞭をしきりにふりまわした。

彼は、馬の四本の脚を、一本一本持ちあげては、さわってみた。首や、脇腹や、脚脛をなでた。指で腰骨をさぐり、口をあけて、歯を調べ、年齢を推定した。それから、家族一同がおりてきたので、馬全般に関して、また、とくにこの馬に関して、学理上、ならびに、実際上の小講義みたいなものを一席ぶってから、この馬に折紙をつけた。

一同が馬車に乗りおわると、彼は鞍の帯革をたしかめてから、鐙に足をかけ、どんとばかりに腰をおろすと、どうしたことが、馬はあばれだし、b 乗り手をふり落としそうになった。

仰天したエクトルは、c 馬をしずめようとつとめた。

「これ、どうどう、さあ、さあ、しずかに」

それから、乗せている馬も d しずまり、乗っている人間も平衡をとりもどしたとき、彼はたずねた。

「用意はいいか?」

一同 X に答えた。

「はい。」

そこで彼は命令を下した。

「出発！」

それを合図に騎馬行列はみるみる遠ざかった。

一家の視線が彼の上にそそがれていた。と、こちらはイギリス式の速歩よろしく、わざと上下運動をはでにやってみせ、腰が鞍の上に落ちたかと思うと、すぐまた空へでも上るようにはねるといったあんばい式。鬘の上にのめりそうになることも再三ではなかった。そして、じっと眼を正面に見すえたまま、顔はひきつり、頬は蒼白を呈していた。

子供の一人を膝にのせている細君と、もう一人の子供を抱いているメイドとは、ひっきりなしにくり返していた。

「パパをごらんよ、そら、パパをごらんよ！」

すると、二人の坊やたち、馬車は揺れるし、うれしくはあるし、空気はすがすがしいときているので、すっかりはしゃいで、キイキイ声をあげるのだった。この騒ぎに、馬は驚いたとみえ、いきなり駆足をはじめた。そして、乗り手が一生懸命とめようとしているうちに、帽子が地面に落ちたので、それを拾うために、馭者は馭者台からおりなければならなかった。そして、エクトルは帽子を馭者の手から受け取ると、遠くから細君に呼びかけた。

「おーい、子供たちをそんなに騒がせないでくれよ、馬があばれてしかたがないじゃないか！」

ヴェジネの森に着くと、一家は草の上ですわって、かねて用意の重箱を取出して、昼食をした。

三頭の馬の世話は馭者がしてくれただけで、エクトルはひっきりなしに立っては、自分の馬に手ぬかりはないかと調べずにはいられなかった。そして、馬の首をなでてやっては、パンや、菓子や、砂糖を食べさせた。

彼は宣言した。

「こいつはなかなかのあばれ馬だ。最初のうちは、さすがのわしもちつとばかりでこずつたね。が、ごらんとおり、すぐ牛耳ったろうが？ やっぱり乗り手がわかつたんだな。もうこれからはあばれまい」

予定どおり、帰りはシャンゼリゼへ出た。

広い街路は馬車のごったがえし。そして、両側の歩道を散歩する人々の数もものすごく、凱旋門からコンコルドの広場にかけて、二条の長いリボンが流れているようだった。これらすべてのものの上に太陽の光はさんさんと降りそそいで、四輪馬車の膝を、馬具の鋼鉄を、昇降口の握りを、かがやかせていた。

これら人間と、乗りものと、動物からなる群れは、狂的な運動によって、あふれ出る生命力によって、ただうごめいているか
のようだった。そして、方尖塔は、はるかかなた、金色の靄のなかに立っていた。

エクトルの馬は、凱旋門を通り過ぎたと思うと、また急に熱気をおびてきて、騎手がいくらしずめようとしても聞かばこそ、
馬車のあいだをぬって、おのれの厩舎をめぐめて、大速歩をやりだした。

一家の馬車はもうとつくに遠く後方に残されてしまった。そして、「産業館」の前まで来ると、馬のやつ、ひろびろしている
ものだから、右に曲がったかと思うと、駆足をはじめた。

そのとき、エプロン姿のばあさんが、ひどく落着いた足どりで車道を横ぎろうとしていた。が、それがまっしぐらに駆けてき
たエクトルの眼の前だった。馬を制することができなかった彼は、あらんかぎりの声で、叫びだした。

「おーい！ 危ない！ おーい！ さがれ！」

耳が悪かったのだろうか、ばあさんは平気で歩いてきたものだから、機関車のように突進してきた馬の胸もとに衝突して、三
度ほどもんどりをうったうえ、裾をはだけながら、十歩も先にころがっていった。

通行人が口々に叫んだ。

「あれを止めろ！」

エクトルも夢中で、鬣にしがみつきながら、わめいていた。

「助けてくれ！」

ものすごいゆさぶりをくったかと思うと、馬の耳の上をまるで弾丸のように通過した彼の体は、急を聞いて駆けつけてきた警
官の腕のなかに落ちたのである。

④ たちまちのうちに、激昂した群衆は、彼のまわりを取りかこんで、身ぶり混りに、わめきたてた。なかでも、一人の老紳士、
胸に大きな円い勲章をつけ、堂々たる白髯をたくわえたその紳士は、ことのほか憤慨しているようであった。彼はくり返し言う
のだった。

「とんでもない！ こういうへたなのは、おとなしく家に引っこんでいるものじゃ！ 乗れもしない馬に乗って、往来で人を殺
すなんて、身のほどを知らぬやつじゃ」

そのとき、四人の男がばあさんになつてきた。まるで死人のようだった。顔は黄色味をおび、頭巾は横つちよにかしがり、全身埃だらけであった。

老紳士は命令した。

「この婦人は薬剤師のところへつれてゆきたまえ。それから、わしらは警察に行こう」

エクトルは、二人の警官につきそわれて、歩き出した。弥次馬たちはそのあとにつづいた。と、ふいに、家族の四輪馬車がそこにあらわれた。細君は飛んでいき、メイドは度を失い、坊やたちは泣き叫ぶといったありさま。彼は女を一人ころがしたが、たいしたこともないので、すぐ家に帰ると、説明した。おろおろしながら、一家の者たちは引きあげていった。

警察での取調べは簡単にすんだ。名はエクトル・ド・グリブラン、海軍省の雇員だと言ってしまえばそれきりで、あとは負傷者の消息を待つばかりとなった。ようすをききに行った警察がもどってきた。彼女は意識を回復したが、本人の話によると、体の内側がひどく痛むということだった。ばあさんは家政婦で、年は六十五、名をシモンといった。

命に別状はなかったことを知ると、エクトルはほっとした。そして、治療費を負担することを約束してから、薬剤師のところへ駆けつけた。

薬剤師の戸口は黒山の人だかりだった。ばあさんは椅子に倒れたなり、しきりにうめいていた。手はだらりとたれ、腑抜けのしたような顔をしている。医者が二人がかりでまだ診察の最中だった。手足は無事だったが、しかし、内傷の心配があるということだった。

エクトルは彼女に話しかけた。

「よほど痛いですか？」

「どうも、はや」

「どこがですか？」

「お腹のなかが、いやはや、どうも火のようで」

医者がそばに来た。

「あなたですか、事故の責任者は？」

「はあ、そうです」

「どっちみち、病院に入れねばなりませんまいね。わたしの知っている病院で、一日六フランで引取ってくれるところがあります
が、なんなら、お世話しましょうか？」

エクトルはこれさいわいと礼を述べ、安心して家に帰った。

細君は涙にくれながら、待ちわびていた。で、彼女を安心させるつもりで、言った。

「なあに、たいしたことはないさ。あのシモンばあさんとやら、もうだいぶいいんだよ。三日もすればもうけろりとなるさ。病院に入れるには入れたがね。たいしたことはない」

たいしたことはないそうだ！

その翌日、彼は役所が退けると、シモンばあさんのようすを見に行つた。ばあさんはさも安楽そうに肉スープを食べている最中だった。で、彼はたずねた。

「あんばいはどうですか？」

と、彼女は答えて、

「それが、旦那、どうにもはかばかしくなくってね。生きた心地もしないくらいで。よくなるどころじゃありませんわ」

医者言うところによれば、余病を併発するかもしれないので、もうすこし待ってみないとわからないとのことだった。

彼は三日待つてまた出かけた。ばあさんは血色もよければ、Yのに、彼を見るなりうめきだした。

⑤「旦那、どうにも身動きができませんで。いやはや、こんなあんばいじゃ、わしは死ぬまで身動きできませんまい」

エクトルは背筋がぞつとした。彼は医者にたずねてみた。医者もこれには手をあげて、

「わたしもよわっているんですよ、さっぱり見当がつかないんで。なにしろ、起そうとすると、わめきだすんですからね。椅子の位置をかえようとしてさえ、えらい声を出すのですから、それもできません。まあ、わたしとしてはばあさんの言うことを信ずるよりほかありませんね。わたしの体じゃないのですから。ばあさんが歩くところを見とどけないかぎり、相手が嘘を言っている」と推察する権利はないわけですからな」

老婆は陰険そうな眼をしながら、身動きもせず、医者言葉をじつと聞いていた。

一週間、二週間、やがて、一か月たってしまった。シモンはあさんはいっこうに椅子をはなれようとしなかった。朝から晩までよく食い、よくふとり、ほかの患者たちとも元気そうによくしゃべり、じっと動かずにいることも慣れてきたようだった。思えばこの五十年來、彼女は階段をあがったりさがったり、敷布団をひっくり返したり、部屋から部屋へ石炭をくばったり、箒やブラシで掃除したりしたのだから、その報酬として当然に儲けた休息だとも思っているようだった。

これにはエクトルもほとほとよわり、毎日のようにかよった。やってくるごとに、太平樂をきめこんでいるばあさんは、宣告するのであった。

「旦那、どうにも身動きができませんで。いやはや、ちよつともできませんで」

グリブラン夫人は、心配でたまらなくなり、毎晩のようにたずねた。

「で、シモンのおばあさんはどうですか？」

すると、そのつど、夫は失望のどん底に落ち沈みながら、言うのだった。

「あいかわらずだ、ちつともかわらん！」

メイドにひまをやった。給金が重荷になったからだ。そればかりか、家計のほうもいっそうつめた。例の特別の手当などもぜんぶふつとんでしまった。

しかたなく、エクトルは四人の名医を呼んで、老婆のまわりに集まってもらった。彼女はおとなしく診察を受け、なでたり、さすったりされながら、いじわるそうな眼でしきりに名医たちをぬすみ見していた。

「ひとつ歩かせてみましょうか」と、医者の一人が言った。

「動けませんです。旦那がた、動けませんとも！」

そこで、医者たちはばあさんをむりにつかまえて、立たせ、二、三步引きずつてみたが、彼女は相手の手からずりぬけて、床の上に倒れながら、ものすごい叫び声を出したものだから、医者たちも腫れものにさわる気持ちでまたもとの席にもどした。

彼らは慎重論に傾き、けつきよく、いまのところ働くのは無理だろうという結論に達した。

そして、エクトルがこの報告を細君にもたらすと、細君は椅子の上にくずれ落ちながら、つぶやいて言うには、

「いっそ家へ引取ったほうがまだましだわ。かえって安あがりにつくでしようから」

彼は飛びあがった。

「この家にだって、おい、冗談じょうだんじゃない」

でも、いまではすっかりあきらめきった彼女は、眼に涙をためながら、答えた。

⑩「そんなことおっしゃったって、あなた、あたしのせいじゃありませんもの！……」

(モーパッサン「馬に乗って」(青柳瑞穂訳)より)

※出題の都合上、一部表記のしかたを変えたり、省略したりしたところがあります。

(注1) シャンゼリゼ……パリの繁華街はんかがい。

(注2) 細君……妻のこと。

(注3) 白髯はくぜん……白いあごひげのこと。

問一 a 〷 d に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中からそれぞれ選び、記号で答えなさい。

ア あやうく イ ようやく ウ しつかり エ さっそく オ しきりに

問二 X には「多くの人が同じことを言う」という意味の四字熟語が入ります。当てはまる四字熟語を漢字で答えなさい。

問三 — 線① 「じつと眼を正面に見すえたまま、顔はひきつり、頬は蒼白を呈していた」とありますが、この表現からエクトルのどのような様子を読み取ることが出来ますか。次の中から最も適当なものを一つ選び、記号で答えなさい。

ア 莫大な特別手当をピクニックのために奮発してしまったため、何としても楽しもうと緊張している様子。

イ 本当は乗馬が得意ではないが、家族に見栄を張った手前、何とか馬を乗りこなそうと必死になっている様子。

ウ 見栄を張って豪勢なピクニックを計画してしまい、今後の生活をどうしようかと心配している様子。

エ 乗馬は得意だが、馬との相性が悪くて乗りこなせそうになく、大金をはたいたことを後悔している様子。

問四 — 線② 「すぐ牛耳ったろうが？」とありますが、「牛耳」とはここでは具体的にどのようなことを意味していますか。十五字以内で答えなさい。

問五 — 線③ 「凱旋門からコンコルドの広場にかけて、二条の長いリボンが流れているようだった」とありますが、「二条の長いリボン」とは何を例えた表現ですか。二十字以内で答えなさい。

問六 — 線④ 「たちまちのうちに、激昂した群衆は、彼のまわりを取りかこんで、身ぶり混りに、わめきたてた」とありますが、この時の群衆の様子を説明したものととして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 貧乏であるにも関わらず華やかなシャンゼリゼに来て事故をおこしたエクトルに立腹している。

イ 気性の荒い馬しか借りることができず、結果として事故をおこしたエクトルに同情している。

ウ 不釣り合いな高価な馬を見せびらかそうとして事故をおこしたエクトルを馬鹿にしている。

エ 乗馬の腕がないのに人通りの多いシャンゼリゼに来て事故をおこしたエクトルを非難している。

問七 Y にあてはまる語として適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 眼に生気がある

イ 眼が血走っている

ウ 眼がすわっている

エ 眼を回している

問八 — 線⑤ 「エクトルは背筋がぞつとした」とありますが、それはなぜですか。理由を三十五字以内で答えなさい。

問九 — 線⑥ 「しかたなく、エクトルは四人の名医を呼んで、老婆のまわりに集まってもらった」とありますが、エクトルは何のために名医を四人も呼んだと考えられますか。三十字以内で説明しなさい。

問十 — 線⑦ 「いじわるそうな」の言い換えとして適当な言葉を本文中から五字以内で抜き出して答えなさい。

問十一 — 線⑧ 「動けませんです。旦那がた、動けませんとも！」とありますが、シモンはあさんがこのように言う目的は何ですか。二十五字以内で説明しなさい。

問十二 — 線⑨ 「腫れものにさわる」とはどのような様子のことですか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 何を言っても無駄だと諦めている。

イ あまりのわがままに腹を立てている。

ウ 機嫌を損ねないように恐る恐る接している。

エ 病状が悪化しないよう丁寧に接している。

問十三 — 線⑩ 「そんなことおっしゃったって、あなた、あたしのせいじゃありませんもの！……」とありますが、この時の細君の様子を説明したものととして最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア どうにもならない状況に動揺し、事故を起こしてしまった夫を非難している。

イ どうするべきか合理的に考えているが、提案が受け入れられずがっかりしている。

ウ 自分の非を棚に上げ、事故を起こした夫に全責任を負わせようとしている。

エ 夫を責めることで気持ち落ち着かせ、今後のことを話し合おうとしている。

二次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

私は学生時代、工学部に入学し、工学研究科に進学しました。べつたりと工学です。そしてなんとなく、工学とは「人様のお役に立ってなんぼ」と信じるようになりました。同じように理系に数えられる理学部といえは、真理追及とか未知の解明とか、知的好奇心が満たされればそれでよく、それが人様のお役に立つかは二の次、というより誰かやってくれよ的な姿勢です。そして、工学こそその「誰か」だと思っていました。

当時、テレビや雑誌では「便利で豊かな社会を」というフレーズが普通に使われていました。そして、その時の「便利」とは「手間がかからないか、頭を使わずに済むこと」と同義に使われていました。高度成長期からバブルの時代です。

ここで、人様のお役に立つ一つの方法は社会を豊かにすること、社会を豊かにすることは世の中を便利にすること、便利にすることは手間いらずか頭を使わずに済ませられること、^①そのための方策は自動化・効率化・高機能化など、という関係が私の頭の中に成立しました。つまり、工学の使命を果たすには自動化・効率化・高機能化を目指していれば良いのです。これは私だけではなさそうで、工学系の論文を読んでもみると、みんなが同じふうを考えているようでした。

*

ポーランド出身の研究者から、日本はとても便利で素晴らしい国ですね、とお褒めの言葉をいただいたことがあります。私が褒められたわけではないのですが、日本で生まれ育った者として自国が褒められるのは、なんとも嬉しいものです。来日する前、その研究者は、日本で暮らすために日本語を覚えねばならぬと思っていたようですが、^②「来日して十年になるが、日本語を覚えなくて済んでいる」^①そうです。

^(注) グローバリゼーションの賜物で、世界が均質化され、ほとんどの日本人は英語がしゃべれるから、というわけでもなさそうです。

まず住居。いったん賃貸契約すると、毎月の住居費は口座振替かカードから落とされてゆきます。便利ですし日本語を話す必要はありません。

次に買い物。無言でスーパーに入り、欲しいものをカゴに入れてレジまで持って行き、無言で支払いをして出てゆくだけで済みます。便利ですし、日本語を話す必要はありません。それどころか、レジでお店の人とお話をしていると、行列の後ろの

方から「早くしろ視線」が飛んできてつらい思いをします。一所懸命に日本語を覚えても、スーパーで値切り交渉などできません。

近い将来、毎日の食料品でさえスーパーに出向いて買う必要はなく、ネットで通販の時代が来るでしょう。そうになると、ますます日本語を話すことなく暮らせる、便利な国になりそうです。

ところが、逆に、片言の日本語以上にスキルアップしたいとのモチベーションが湧かない、これは案外つまらないものだ、せっかく日本に住んでいるのに、とも言っていました。仕事の選択肢のうちのひとつとして選んだのがたまたま日本だけであって、何も日本である必要はない、日本に住んでいること自体を楽しみたいのに、「その必要はない」と「便利」が彼に言っているのです。

そして問わず語りに、ポーランドで民主化が成功する前夜（一九八〇年代）の不便だった思い出を、友人は語り出しました。食料配給にまず早起きのお婆ちゃん^{ばあ}が並び、つぎに学校に行く前の自分が交代し、学校に行く時間ごろにお母さんが交代しに来るのが、毎日の日課だったそうです。今の日本ではあり得ない光景です。効率化優先の社会では忌避すべき状況です。ただ、ポーランドの友人は、この状況を嬉しそうに語るのです。家族の結末は、この時が一番強かったと。この時は、お婆ちゃんも僕もお母さんも、誰一人として家族からかけてはならない存在だとみんなが思っていたんだと言っていました。

③均質化された「便利」に居心地の悪さを感じるということでしょうか。ポーランドの友人の話は、グローバリゼーションとは表面的には関係のないように見えます。ただ、「誰でも同じように」ということがグローバリゼーションならば、ポーランドにいろいろが日本にいろいろが同じように暮らせるのは、グローバリゼーションの賜物と言っても良さそうです。

世界は、同じように均質化されているのが望ましいでしょうか？しかし、「せっかく日本に住んでいるのに」という眩きは、その世界は居心地が悪いと言っているように聞こえます。そして、問わず語りに不便な配給の話が始めたのは、居心地の悪さの反対に「不便」があると直感したからではないでしょうか。

*

私が学生時代に師事し、AIを教わり一緒に研究をした先生を、ここからは師匠と呼びます。こちらにしては突然に思えたのですが、ある日師匠が「これからは不利益やでえ」と言い出しました。

不利益とは、不便の益、英語で言うところの benefits of inconvenience です。当時、まだ私たちが学会などで不利益という言葉を使

い始める前は、不の便益という意味でつかわれていたり、負の便益や非便益の仲間のような使い方をされていました。つまり、良くないネガティブな言葉でした。

一方で私たちは、不便の益という、ポジティブな意味で使います。しかも「良いこともあるから、不便だけど我慢してね」という後ろ向きの意味ではなく、「不便だからこそ得られる益があるんだ」という前向きの気持ちを込めています。

師匠の言葉に「世の中には無駄なムダと無駄でないムダがあるんだ」というのがあります。こうやって字に起こして、漢字とカタカナで書き分けたら、なんだか格言めいて見えます。でも、口頭で聞いた時には何かの呪文じゅもんか早口言葉かなと思いました。そして、突然何を言い始めるのだらうと、その時は思いました。ところがある日、突然に合点がてんがゆきました。きつと、ムダと手間を同一視していることの皮肉か、同一視していることへの苦言であろうと思うのです。

不便益を探していると、手間をかけるからこそその益がたくさん見わかります。この時の手間は、無駄ではありません。ところが一方で、^⑤手間をかけても空回りして、手間をかけない時と何も変わらないことがあります。結果が変わらなくても過程の違いに何か意味があれば良いのですが、それすらないこともあります。それこそ手間が無駄になっています。

ところが私たちは普通、これらの区別を意識することはなく、手間といえばムダだと思えます。^⑥手間はいつでもネガティブなもので、できるだけ避けるほうが良いと無意識的に考えています。

ここで、さっきの師匠の言葉に戻ります。カタカナのムダを「手間」に置き換えてみます。「世の中には無駄な手間と無駄ではない手間があるんだ」。なんと、あたりまえのことを言っていたのですね。私たち弟子たちが「世の中には不便益があるんだ」と言っているのと根っこが同じでした。

*

保育園や幼稚園ようちえんの「園庭」をイメージしてください。「園庭」と聞くと平らな土地が想像されると思うのですが、十数年前の新聞記事で、「園庭」をわざとデコボコにして園児の動きを不便にさせようとする園長がいるという話を読みました。

大人にとって、園庭は平らなほうが、子どもを管理ししやすいし安全を担保しやすいので便利です。園児にとっても、地面が真っ平なほうが移動するのに便利で、追いかけてこまじやすいです。デコボコすると、移動しづらいですし、転んでけがをする危険も増えるので不便なようになります。ところが、その不便さによって園児が活いき活いきとしてきたというのです。その時は、デコボコと活いき活いきの因果関係がわかりませんでしたし、幼稚園の名前も覚えていなかったのですが、ふと気になってウェブで検けん

索してみると、園庭をデコボコにしている幼稚園が今では意外とたくさん見つかります。

その中の一つ東京都立川市にある「ふじようちえん」のウェブページには「(略) 不便に出会うと、子どもたちは自ら工夫し、工夫するところに育ちが生まれてきます」と書いてありました。移動に不便な段差やデコボコがあることで、かけっこをしてもいつも通りに足の速い子が勝つのではなく、いろいろと考えて勝てる子が出てきます。かけっこ以外の遊びも、^⑦能動的に考えて工夫する余地が生まれるのです。自分から考える機会が増えるというのは、園児を生き活きとさせるキモのようです。

ほかに、どうやったら転んでしまっか経験できる、転んだらどうなるのかの経験ができるというのも大切でしょう。ひよつとすると、子どもたちの体幹が鍛えられるという身体的な益があるかもしれません。また、ほかに用意されている不便によって子どもたちは自然を感じたり、想像力を広げたりといった益があるのかもしれませんが。

*

「不利益」は、便利さに囲まれた生活へのアンチテーゼでも、「昔は良かった」といった^(注4)ノスタルジーでもありません。「不便だけど、我慢をすれば良いことがある」といった妥協^{だきよう}ではなく、「不便だからこそ、良いことがある」という前向きな考え方をすることも特徴^{とくちゆう}です。

とはいえ、「ノスタルジーではない」という表現も誤解を招きやすいところがあります。「昔は良かった。あの頃に戻りたい」というところで思考が止まってしまうのは単なるノスタルジーです。「なんで昔は良かったの?」という理由を掘り下げて考え、もしそこに「不便の益」があれば、これからのモノ・コトのデザインに活かしていく。こうしたAでB志向の考え方をしていくのであれば、ノスタルジーも不利益を考えるための取っかかりの一つになります。

リハビリでも勉強でも筋トレでも、苦勞してしんどい思いをしたら、良いことが待っています。手間をかけ、頭を使えば、なんらかの見返りがあるって、あたりまえのことかもしれません。何も不利益という新しい言葉を作ってまで語るべきでしょうか? 実は、あたりまえに思っていることが、そうでもないのです。益のない不便と益のある不便は、それぞれ存在します。あたりまえで自明だと最初から思い込んで思考停止させてしまうと、その存在にも気づけません。なんでも便利なほうが良いに決まっている、という時の「決まってる」を疑ってみて初めて、不利益であるかも、と気づけるのに似ています。

(川上浩司『不利益のススメ』より)

※出題の都合上、一部表記のしかたを変えたり、省略したりしたところがあります。

(注1) グローバリゼーション……国や地域といった枠組みを超えて、経済の自由化や人的交流を可能にすること。

(注2) スキルアップ……技術力を高めること。

(注3) モチベーション……動機のこと。

(注4) アンチテーゼ……ある理論・主張を否定するための反対の理論・主張のこと。

(注5) ノスタルジー……過ぎ去った時代を懐かしむ気持ちのこと。

問一 ——線①「そのための方策は自動化・効率化・高機能化など」とありますが、あなたの身の回りでは「自動化・効率化・高機能化」されて「便利」となった具体例を挙げ、どのように「便利」になったかがわかるように四十字以上五十字以内で説明しなさい。なお、本文にない具体例を挙げることにします。

問二 ——線②「来日して十年になるが、日本語を覚えなくて済んでいる」とありますが、ポーランド出身の研究者は日本でのこの生活をどのように感じていますか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 日本語を話せなくても親切な人々のおかげで便利に生活することができるため、日本は素晴らしい国である。
- イ 日本語を話せなくても便利に生活できてしまったため、得るものが何もなく、わざわざ日本に住む必要はない。
- ウ 日本の生活は便利であるが、「誰一人としてかけてはならない存在」になることは難しいため不満である。
- エ 日本は便利で素晴らしいが、日本語を覚えなくても生活できるほどの便利さはつまらないものである。

問三 ——線③「均質化された『便利』」とはどのようなことを意味しますか。その説明として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

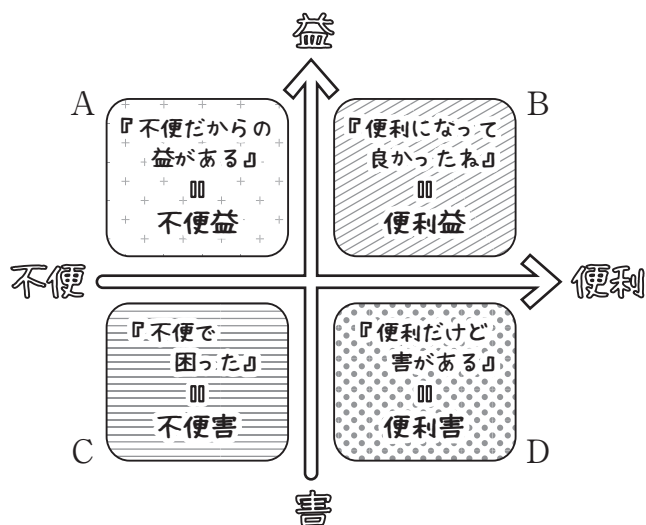
- ア 言語が異なる国でも、誰もが自国と同じように不自由を感じることなく過ごせること。
- イ 言語が異なる国で必死に過ごすうちに、自国と同じように不自由を感じなくなってきたということ。

ウ どの国であっても、人々が不自由なく生活したいと思う気持ちは同じであるということ。
 エ どの国であっても、人々は誰もが不自由なく生活できるよう努力しているということ。

問四 — 線④ 「合点^{がてん}がゆきました」とありますが、「合点がゆく」の意味として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

- ア 教わる イ 納得する ウ ひらめく エ 覚える

問五 — 線⑤ 「手間をかけても空回りして、手間をかけない時と何も変わらないことがあります」について、次の問いに答えなさい。



(1) — 線⑤は上図のA～Dのどの部分に当てはまりますか。記号で答えなさい。

(2) 次の事例は、上図のA～Dのどの部分に当てはまりますか。それぞれ一つずつ選び、記号で答えなさい。

ア バリアフリーとは逆の発想で、日常生活に意図的にバリアを設置することによって、身体能力^{おとろ}が衰えるスピードを低減させる。

イ 電子レンジの「あなたため一分」ボタンは、何事にも無難に対応する一方で、料理を工夫するモチベーションを下げることもある。

ウ 電子教科書の発明により、毎日通学時に重い荷物を持って行く必要がなくなった。

問六 — 線⑥ 「手間はいつでもネガティブなもので、できるだけ避けるほうが良いと無意識的に考えています」とありますが、このような考えが広がっている社会のことを何と言いますか。本文中から十字以内で抜き出して答えなさい。

問七 — 線⑦ 「能動的」の対義語を答えなさい。

問八 (1) に当てはまる言葉を最後の「*」で区切られた大段落から五字以内で抜き出して答えなさい。

(2) に当てはまる言葉として最も適当なものを次の中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 効率 イ 未来 ウ 快樂 エ 上流

問九 (1) 筆者は「不利益」をどのようなものと考えていますか。文中の言葉を用いて三十字以内で説明しなさい。

(2) 筆者の考えを踏まえた上で、「不利益」の具体例を自分で考え、その効用について四十字以内で説明しなさい。

三次の——線部のカタカナを正しい漢字に直しなさい。

- | | | | |
|---|-----------------|----|----------------------------------|
| 1 | 身のケツパクを証明する。 | 2 | ヒヨウジュン的な考え方だ。 |
| 3 | ハランのない平和な毎日を送る。 | 4 | 模範 <small>もはん</small> のエンジニアをする。 |
| 5 | 友人とイキトウゴウする。 | 6 | 雑誌をアむ。 |
| 7 | 戦う前からコウサンする。 | 8 | 人員をテンコする。 |
| 9 | 欠点をオギナう。 | 10 | デンセン病を予防する。 |



国語解答用紙

(字数制限のある場合、句読点・カッコなどはすべて字数に数えます。)

一問一 a

b

c

d

問二

問三

問四

問五

問六

問七

問八

問九

問十

問十一

問十二

問十三

二問一

問五 (1)

(2) ア

イ

ウ

問六

問二

問三

問四

問七

問八 (1)

(2)

問九 (1)

(2)

三

9	5	1
う		
10	6	2
	む	
	7	3
	8	4

評点



受験番号

氏名